

図書紹介

平山満義編著

『教育実践と情報メディア』

樋口直宏*

本書は、2009年3月に筑波大学を定年退職された平山満義先生の記念事業として刊行された。執筆者は、平山先生をはじめ、筑波大学およびかつて勤務されていた上越教育大学で指導を受けた方々を中心に、多彩な顔ぶれとなっている。本書は五部16章構成から成り、その概要は次の通りである。

「第一部：視聴覚教育、放送教育そして情報教育の歴史と関係」においては、まず「第1章 視聴覚教育と放送教育の関係 ―教育方法学から見た成立条件―」として、学習の成立という観点から、視聴覚教育および放送教育をどのように活用すべきかを示している。「第2章 視聴覚教育の歴史とその効用」「第3章 放送教育の歴史とその効用」では、映画、VTR、コンピュータを中心とした視聴覚教育、および学校放送開始以来の放送教育について、歴史とともに今日の課題を論じている。「第4章 情報教育の歴史と内容」においても、教育方法学や教育工学との関係および歴史、さらには教育政策をふまえた動向について述べている。以上の歴史的展開に対して、「第5章 韓国の教育情報化の現状」「第6章 中国の情報メディア利用の状況」では、両国のメディア教育について、情報化推進の歴史と動向、ICT教育の現状、さらには教員の情報化研修を中心に取り上げている。

「第二部：教科教育と情報メディア」においては、「第7章 社会科・公民と情報メディア」「第8章 社会科・歴史と情報メディア」で、中学校公民と小学校6年生歴史の授業内でインターネット、映画、プロジェクターとデジタルカメラを使用した事例を紹介している。また「第9章 理科と情報メディア」では、ICTの基礎に関係する電子部品や回路に言及するとともに、自身の開発したビデオおよびコンピュータ教材を取り上げた点も特徴である。

「第三部：情報活用能力の育成」においては、直接的に情報教育を扱う中学校技

*筑波大学大学院人間総合科学研究科

術・家庭および高等学校情報の理論と実践が論じられる。「第10章 技術・家庭科における情報教育の展開」では学習指導要領において情報教育がどのように扱われてきたかについて、「第11章 教科『情報』の目標と内容 ―身近な題材から学習し、生活の中に生かす力の育成―」「第12章 教科『情報』における情報メディアの効果的利用 ―情報モラルの育成を図るために―」では、情報セキュリティおよびモラルの問題に関する実践例を扱った点が特徴である。

「第四部：教師による情報メディアの活用」においては、美術、生活指導、総合的な学習の時間での情報教育が検討されている。「第13章 美術教育と情報メディア ―著作権と美術教育―」では児童生徒の作品における著作権の問題を、「第14章 生活指導と情報モラル教育」では携帯電話や学校裏サイト等の問題と生活指導のあり方について、それぞれ論じている。また「第15章 総合的な学習の時間と情報メディア」では、総合的な学習の時間におけるメディア利用の事例を紹介している。

「第五部：学校メディアの新しい視角」においては「第16章 拡張したメディア概念からみた学習秩序」として、「メディア」の概念について新しい視点を示している。またこれをふまえて、後半では学習秩序の問題とメディアとの関係を論じている。

すでに紙幅の大半を概要の説明に費やしてしまったが、これは本書が質量ともに充実していることの証しに他ならない。以下、本書の特徴を2点記しておきたい。

第一は、情報教育の歴史および今日の動向に関して詳しい記述がされている点である。海外も含む戦後の動向について、具体的な事実や教育機器に即して述べられており、技術の進展が速い分野だけに参考になる部分が多かった。特に第2章および第3章においては、教育映画の普及、VTR 機材、NHK 教育テレビの学校放送番組等に関して、具体例が過去および現在にわたって取り上げられ、執筆された平山先生の博識さとともに知的好奇心の旺盛さを感じることができた。また同時に、第4章も含めて視聴覚教育・放送教育―教育工学―情報教育という一連の流れを俯瞰することが可能となっている。なお本書の付録として、各章との対応関係も記した「視聴覚教育・放送教育・情報教育年表」が掲載されており、便利である。

第二は、情報教育およびメディアを利用した実践事例が多く含まれている点で

ある。第三部における中学校技術・家庭および高等学校情報の実践例は、学校現場で情報教育を担当された三人の執筆であり、題材は興味深く内容もわかりやすい。また、他教科や生活指導、総合的な学習の時間の実践例は、情報教育を専門としない者にも参考になる点が多い。小中高校生に対する情報教育というと、どうしてもインターネットや表計算ソフトの活用といったパソコン操作の入門的内容になりがちであるが、それとは異なる実践をどのように構築するかについての手がかりを、これらの事例は与えてくれる。

本書は、執筆者一人ひとりの個性が感じられる研究書であるとともに、情報教育の概説書としても内容を網羅している。理論と実践との融合が、実現した一冊と言えるだろう。

平山満義編著『教育実践と情報メディア』協同出版，2009年，2,625円